
図書室

支夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

図書室

【Nコード】

N2342Y

【作者名】

支夜

【あらすじ】

とある放課後の
図書室での話。

- 霧生 切 -

放課後の図書室。

図書委員長の俺は
自分の仕事を淡々と進めていく。

本があるべき場所にちゃんと直されているか、
今日返却されるはずの本がきちんと返却されているか、
新しく入荷する本の手続きなど
委員長の俺には仕事如山積みだった。

「き・・・霧生君・・・」

ふいに呼び止められ、俺は反射的に振り向いた。

そこにいたのは最近よく俺に話しかけてくる女の姿。
確か同じクラスだったっけ・・・
興味ないからあまり覚えてないな・・・

「何？」

流石に呼び止められたのに無視するのは失礼だ。
愛想笑いを交えながらも俺は優しく彼女に言った。
すると彼女は顔を真っ赤にさせながらも小さな声で

「こ、この本何処に直すのか忘れてしまっ……」
と言った。

そんなの俺じゃなくとも
受付にいるやつに聞けばいいだろう……

仕事を邪魔されて少タイラついていた。
だからといって感情のままに
彼女に冷たい態度などとったりしない。

「……この図書室広いからね。じゃあ俺が戻しておくよ。」

俺はにこやかにそう言つと
彼女が持つている本を受け取るため、彼女に手を伸ばす。
すると何故か彼女は本を渡すのではなく、俺の手を握つた。

「えーつと・・・どうかした？」

彼女は先ほどよりも顔を赤くしながらも
真っ直ぐに俺を見ている。

俺は意味が分からず
とりあえず手を離してもらおうと
自分の手に力を込めようとした時、彼女が口を開いた。

「あ・・・あの・・・私・・・ずっと霧生君のことが・・・」

『好きでした』

きっと彼女はこう言うだろう。

こういう経験は初めてじゃない。

手を握られた時点で、大体予想はついていた。

彼女が「す」と口にしようとした時

「悪いけど」

いきなりの第三者の声に驚いた俺と彼女は
ほぼ同時に声が発せられた方向を見た

そこにいたのはよく知った顔の人物。

「切は俺のだ。勝手に触れるな。」

その人物は冷ややかにそう言い放った。

彼女は怯えた声で「ご、ごめんなさい！」と言って走り去って言った。

「……全くお前は。もっと言い方ってもんがあるだろう、零」

「言い方？お前は俺のだ。何がおかしい。つか何触らせてんの。」

「仕方ないだろ？いきなりのことだったんだから」

なんて澄ました顔で答える俺だったが、零の綺麗な顔に見とれてしまいそうだった。

整った顔立ちをしており、細身の体で肌の色が白く、黒髪で前髪は目くらいの長さに襟足は少々長い。

左耳にはピアスが三つついており、指には綺麗に輝く指輪が一つ。

こんな奴に『俺の』なんて言われたら

どれだけの女が目をハートにするだろうか。

「仕事、まだ終わらないのか？」

さっきまでの真剣な眼差しから一気に
きょとんとした顔になる零。

このギャップがたまらなく可愛い。

そんなことを思い、何も答えずにいる俺に今度はムツとした表情を
して、

「なんとか言え！」

ああ・・・本当に可愛い・・・

「ああ・・・もう少しで終わる。後あれを」

近くにあった仕事を指差し、説明しようとした時

急に顎を強く引き寄せられ

「どれだけ待ったと思ってる？大人しく待ってたんだ。ご褒美はもらうからな？」（ニコ）

と小声で呟く零。

さっきまでの可愛さはどこに？と思ってしまうほどクールは顔つきで。

こんな零に俺は完全に心をもっていかれている。

広い広い図書室に

一瞬にして俺たちの空間ができる

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2342y/>

図書室

2011年11月5日03時06分発行